

会 議 録

1. 会議名	出雲市子ども・子育て会議 第3回 発達支援検討部会
2. 開催日時	平成26年5月12日(月) 18:30～20:35
3. 開催場所	出雲市役所本庁 くにびき大ホール
4. 出席者	<p><委員></p> <p>板倉明弘委員、廣戸悦子委員、西郁郎委員、原広治委員、及川馨委員、岸和子委員、山崎彰子委員、江角美枝委員、長光悦子委員、藤原美保委員、福田明美委員、</p> <p>(順不同)</p> <p>(欠席：名越真理子委員、太田澄子委員)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、子育て調整監、子育て支援課長、健康増進課長、学校教育課長、福祉推進課主査 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第2回部会について</p> <p>(2) テーマ別討議について</p> <p>① 出雲市の発達支援に関する主な取り組み等について</p> <p>② 平成25年度 島根大学研修報告</p> <p>③ 討議『支える』</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
健康福祉部長	<p>1 開会</p> <p>子ども・子育て会議が昨年10月からスタートし、本年度は本格的に事業計画の検討・策定に向けた作業を進め、9月頃には素案をまとめていきたいと考えている。本日は「支える」をテーマに討議いただく。本市の子ども一人一人が健やかに成長することができ、保護者の方も安心して子育てができるまちの実現をめざして、本日も熱いご審議を賜りますようお願い申しあげる。</p>
部会長	<p>本日も、皆さまのご協力をいただき、議事を円滑に進めていきたいのでよろしくお願ひする。</p> <p>なお本日は、私が事務局に提案をし、昨年度(平成25年度)、出雲市教育委員会から島根大学教育学部に研究生として派遣された、今市幼稚園の秦純子教頭にお越しいただいている。後ほど、本日の討議テーマに関して、研究成果の中からご説明いただきたいと考えているがよろしいか。</p>

各委員	(了承)
部会長	<p>2 議事</p> <p>(1) 第2回部会について</p> <p>それでは議事に入る。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【資料1 第2回部会委員意見まとめについて説明】</p>
部会長	<p>先ほど説明のあった意見のまとめにあったものを、今後、具体的にイメージ化していきたいと考えている。</p>
部会長	<p>(2) テーマ別討議について</p> <p>第2回の「気づき」に続き、本日は「支える」をテーマに討議を行う。討議に入る前に、出雲市の取り組みを何点かご説明いただきたい。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>①出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて</p> <p>【資料2 出雲市の「支える」主な取り組み、資料3 出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて説明】</p>
部会長	<p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援教室（健康増進課） ・子ども家庭相談（子育て支援課） ・幼児通級指導教室（子育て支援課） ・小・中学校の通級指導（学校教育課） ・巡回相談（わくわく相談）（学校教育課） <p>只今の説明について、ご質問やご意見あればお願いします。</p>
委員	<p>発達支援教室について、発達支援が必要と思われた保護者や子どものうち、実際に参加される割合はどのくらいか。また、幼児の通級指導教室の通級指導ヘルパーは指導することができるか。</p>
事務局	<p>実参加人数は39組であるが、7割から8割が参加されている。この他にも声をかけたが1回も参加されなかった、あるいは1回来られたが、その後来られなくなったという方もいる。参加できない又は参加しにくい人については保健師がこの教室とは別に個別に対応している。</p> <p>また、幼児通級指導ヘルパーは、幼稚園や小・中学校の教員免許を持つ方を配置し、現場で指導して頂いている。</p>

部会長	<p>後ほどの討議の中で、事業説明も踏まえながら議論したいと思う。ご質問やご意見があれば討議の中でお願いします。</p>
部会長	<p>② 平成 25 年度 島根大学研修報告</p> <p>平成 25 年度に出雲市教育委員会から島根大学教育学部に研修生として派遣された今市幼稚園の秦純子教頭から、1 年間熱心に研究された結果をまとめられた報告書についてご説明していただく。</p> <p>【資料 島根大学研修報告「出雲市における特別支援教室（幼児教育）の推進のために～出雲の子どもたちの健やかな成長をめざして私たちにできること～】</p> <p>《概要》 ※詳細は別紙資料を参照</p> <p>I. 出雲市における就学前の特別支援教育の現状と課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出雲市に生まれた子どもの母親へのインタビュー 2. 幼稚園、保育所職員への特別支援教室に関するアンケート <p>II. 今後の出雲市における特別支援教育のあり方について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期からの一貫した支援システムの構築について <ol style="list-style-type: none"> (1) 窓口の一本化と事業運営の共同化（連携・協力） (2) 相談と支援のコーディネートとコンサルテーションの実施 (3) 特別支援教育のセンター的機能を有する園の設置・拡充（拠点園の増設など） (4) 発達支援教室・通級指導教室の拡充（親子をゆるやかに支える場） 2. 保育者の資質向上と園内体制の充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 研修の充実（保育者が抱える悩みを解決し資質向上） (2) 園内体制の充実（園全体の組織力アップ） (3) 外部の専門機関の活用（専門家による巡回相談チーム体制など）
部会長	<p>保育教育の分野から一つの提案をいただいた。ご感想、ご意見については、この後の討議の中でお話ししていただくようお願いする。</p>
部会長	<p>③討議『支える』</p> <p>「支える」をテーマとして、支援が必要な子どもやその保護者などを寄り添い支えていくため、現状や課題をお話いただく中で、今後必要な取り組みについて討議していただく。なお、再度確認させていただくが、本部会は、就学前の子どもたちの発達支援について検討することになっている。就学前の子どもといっても様々だが、障がいのはっきりしている子どもはもとより、気になる子どもを支えることも意識しながら、討議をお願いしたいと思う。発達支援といっても幅広いため、少し絞って討議を進めていきたい。</p>

委員	<p>《次の視点から討議》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもを支える ○保護者を支える ○支援者を支える ○地域で支える <p>先ほどの報告書の中で特別支援の拠点園についての話があったが、地域によっては拠点園が設置されていることが保護者にあまり知られていないかもしれない。保護者へのインタビューの中では、拠点園に入園させたいという保護者の意見があったようだが、一方で、地元で育てたいという意見はなかったか。また、障がいの状態がはっきりしないような子どもには慎重な対応が必要だと思う。その子どもの状態を個性としてとらえた場合、「一緒に考えて子育てしていこうね。」という気持ちを保育者が表わさない限り、心を開いてくれる保護者は少ないと思う。拠点園を設置することも大切であり、就学相談することも大切であるが、その一步前の体制として、子育てを考えていく身近な場というのはとても大切だと思うし、不安を一緒に考えていく場は地域にたくさんあった方がいいと思う。</p> <p>また、職員も保育の基本の部分、子どもをどうとらえるかの基本部分を学ぶことが重要であると改めて感じている。そこを学ばない限り保護者に発する言葉が上から目線になり、それに保護者は敏感に反応している。研修を1回受けただけで、いい支援者になれるというようなことはないと思う。地道に研修を積み上げながら、大きなしくみづくりを考えていくことも必要だと思う。子ども達は誰かに支えられて集団の中にいるので、その子どもが笑顔でいられる時間が増えたらいいと思う。</p> <p>保護者からの相談は、1、2回相談したら次に繋がっていくという簡単なものではない。保育所で1、2歳の頃に少し気になっている子どもは、3歳児健診で保健師にも相談する。3歳児健診で困り感がなくなればいいが、困り感が消えなかった時に、その後に健診の場がない。気になっていた子をどう支えていくかということで、保育所にも相談する場がほしい。通級指導教室（以下「通級」という。）から保育所に来ていただいて一緒に保育をみてもらいながら相談することもあり、通級を心の支えにしている。幼児通級指導ヘルパーがパートではなく正規職員になって、支援会議等にも出席できるような体制になったらいいと思う。</p>
秦教頭	<p>どの保護者も地元で育てたいという気持ちがあった。地元の園に見学に行き、地元にいる友達と育っていききたいという思いである。拠点園である中央幼稚園については、例えば療育機関に通っている子どもについて、親の会や担当者等から中央幼稚園で受けられる支援について情報提供があり、見学に行きたいという声があった。</p>
部会長	<p>保護者と一緒に考えていけるような相談の場がほしい、職員も迷いや悩みがあるので、職員の悩み等にも対応できるような相談の場が欲しいという意見、3歳児健診から間が空く、その間に職員も相談できる場が必要であり、今後も増えていったらいい</p>

	<p>という意見があった。</p> <p>また、一人ひとりの子どもや保護者から学ぶような研修等の地道な活動と同時に、システムとしての活動(仕組みづくり)の両面が必要であるという意見もうかがった。</p>
委員	<p>小学校に設置されている幼児通級指導者の勤務時間について教えてほしい。</p>
事務局	<p>4つの小学校に配置されている幼児担当の通級指導ヘルパーの勤務時間は、1日最大4.5時間としている。平成25年度から平成26年度は0.5時間分増やしたところ。フルタイムや正規職員の配置をとという意見があったが、実際にフルタイムの職員を募集しても人が手配できない状態である。逆に職員個々の事情により、4.5時間の勤務時間が難しい場合は、4時間勤務で対応している状況もある。</p>
委員	<p>小学校にも通級があるが、集団で生活している中で、個別に指導することが必要になった場合には通級はととても大きな力を発揮する。小さい頃の支援はとても大切であり、幼児の通級のニーズは非常に高い。保育所からも保護者からも相談機関等より少し相談しやすい場所であり、幼児の通級の充実を進めてもらいたい。それが小学校の通級にもつながっていくことになると思う。小学校の場合は、通常の学級の中で出来ない自立活動を通級で行うことになるが、それが必要な子どもが通っていくので、子どもの発達を支える上でも、つなぎの面でも非常に大きな存在だと思うので是非充実してもらいたい。</p>
部会長	<p>勤務条件が合わず、募集してもなかなか集まらないという状況がある中で、子どもの様子から見た場合、支えるためにはそのような「場」が必要である、つなぎの観点からも必要であるという意見である。</p>
委員	<p>今の意見に賛成である。発達クリニックなどから、比較的、敷居が低く、つなぎやすい場所として、通級は非常に有用である。是非、幼児の通級も充実してほしいと常々思っている。</p> <p>先ほどの報告は、とてもよくまとまっていて共感を得たところである。小学校の通級についてであるが、短時間勤務などの理由から、通級における情報を小学校の通級の先生方同士で共有することができない状況がある。せっかくやっているのに非常にもったいないと思う。通級の先生もたくさん思いはあるが、他の先生に伝える時間がないことや、支援会議に出席する時間がない状況があるため、勤務時間の延長やスタッフの充実がとても重要だと思う。</p> <p>通級は、医療機関に行くことや療育施設に通うこととよりは、かなり敷居が低い場所であり、実際に現場の先生たちと話しやすい立場である。通級は幼児期、学童期においてもとても有用な場所である。また、その先生方が教育、指導、支援などいろいろなことを一緒に考えてもらえる。今は、個別の支援会議に通級の先生方がなかなか出</p>

	<p>席できない現状がある。書面ではなく、実際に一緒にディスカッションができるといい。是非、通級のスタッフを充実していただきたい。</p> <p>保護者に説明する際にも、「幼稚園のお子さんが、これから通う予定の学校の先生のもとで、早く慣れてスムーズに小学校につながるような支援が受けられるよ」というと、とても保護者と話がしやすいし、つなげやすい場所である。教育委員会とも情報などつながっていくことになる。</p> <p>スタッフ一人の勤務時間を短時間勤務（4時間など）から増やすことができなければ、スタッフの数を増やす方法も検討してほしいと思う。</p>
部会長	<p>子ども、保護者と接する時間、連携する機関の方々と接することができるような時間を確保できるようなことを考えていく方法があると思うので、検討しながら実現してほしいという意見である。</p>
委員	<p>報告書の中の幼稚園・保育所職員へのアンケートにおいて、特別支援に関する悩みの理由の一つに「理解が十分でない」とあるが、もう少し具体的に教えてほしい。</p>
秦教頭	<p>例えば「保育者が子どもに対する理解が十分ではないこと」や、「保護者が子どもの発達について十分の理解がないこと」などの悩みが含まれている。</p>
委員	<p>幼児通級の利用児数が76人というのはあまりにも少ないと思うが、この76人は幼稚園又は保育所の子どもが利用しているのか。</p>
事務局	<p>以前は保育所よりも幼稚園の子どもが多かった。2、3年前の時点で保育所の子どもが幼稚園より多くなった。おおよそ半々だが、現在は保育所の子どもが若干多い状況である。</p>
委員	<p>先ほどの報告からも、相談したい保護者はもっと多いと思っていた。そういう方が通級を十分に利用されているのかどうか。先ほどの報告書では「通級の体制が十分ではない」という意見があり、現場からは拡充が求められているように思う。実際に体制として十分なのか、また行政側としてどう受け止めているのか。</p>
事務局	<p>基本的に幼児の通級を利用したいという要望については断ってはいない状況である。利用日の調整をさせてもらうことはあるが、利用される要望については断らず全て受け入れている。</p>
委員	<p>通級の拡充を求める保護者が多い状況からみると、行政としての対応が十分といえるかどうか。</p>

部会長	76名の利用されている方々は、断っていないということになると今の状況にニーズに合致しているということになる。ところが現場である保育所、幼稚園、学校からは、もう少し拡充してほしいという意見がある。
事務局	4.5時間という勤務時間が関係しているかもしれない。どうしても半日で一人しか対応できない面があるため、ヘルパーがいる時間帯しかお受けできない状況がある。保護者が希望する時間帯に対応できていないということが理由かもしれない。
委員	通級の実質枠に対して利用している児の率がどうなのかがわかると、枠が足りているのか足りていないのかが分かってくる。支援先として通級を紹介する立場としては、枠が埋まっているのではないかと感じている。予約率を出すと分かりやすいと思う。
部会長	<p>予約枠が埋まっているのであれば、紹介しようがないということになる。何らかの方法で少なくしなければならないということになるが、その点について情報を頂きたいと思う。</p> <p>枠をつくるという意味では、県内の違う市において、幼児担当ではない小学校の通級の担当の先生が、幼児を指導していることもある。そういったことでも枠は広がっていくということになる。いくつかの方法が考えられると思う。小学校の教員が幼児を指導するという方法であるが、大いに検討してもらいたいと思う。本来の対象は小学生であり、その支援を担保した上での対応になるため大変厳しいとは思いますが、小学校の通級の担任の先生にご援助いただくということはどうなのか。</p>
事務局	小・中学校において通級に在籍している児童生徒は多く、年々増加する傾向にある。学校によっては1人で20数名の対象の児童生徒を指導している。そうすると、1週間の枠には限界があるため、本来なら週2時間必要な子どもでも、調整して1時間になったり、隔週になったりする場合が生じる。小・中学校の通級については要望が非常に多いため、県へ指導者の増員を要請しているところである。
部会長	なかなか厳しいという状況を伺った。いずれ小学校に就学してくる子どもとなれば、小学校の教員が事前に子どもの情報を知っておくことはとても有用であると思う。その方法の一つとして、小学校通級担当の教員が幼児の教育相談の場に出かけるなど、そういったつながりも検討すると一つの拡充にもなってくると思った。
委員	幼稚園や保育所に入園・入所にあたり、まず園に受け入れてもらえるか、もらえないかで保護者がすごく不安になっていることがある。先がなかなか見えないという不安もある。特別支援が必要な子どもの入園、入所にあたり、保護者がいろんな園を一生懸命回って入園先を探している現状がある。そういった時に当市として窓口とな

<p>部会長</p>	<p>り、「こういう地域だったらこういう幼稚園はどうですか。」などとコーディネートできるような人が必要だと思う。</p> <p>また、一人で悩みを抱えている保護者がたくさんいる。同じ悩みを持つ保護者が何でも言い合えるような関係ができる、仲間ができるような支援体制も必要になってくると思う。</p> <p>2つの窓口の提案をいただいた。一つは、就園を一つの例として困った時に相談できるような窓口、もう一つは保護者同士が集まれるような窓口があればいいという意見であった。また、園や学校の入学等にあたり保護者がたいへん苦慮されている現状があると伺った。あくまでも保護者が子育てをすることになるが、そういったお手伝いをしてくれる、支えてくれる場や人が必要であるという意見だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>ある保護者から、「小学校の先生から落ち着きがないので相談にいったらどうかと言われたが、家族の中ではどこに相談したらいいのか分からず、児童相談所に電話したところ、管轄ではない地域だと言われるなど、振り回された感じがした。」という話を伺った。先ほどの委員さんの意見にもあったが、困ったことがあった時に「ここに相談したらいい」というようなものがあるといいと思った。</p>
<p>委員</p>	<p>地域で支えるということについて、地元で育てたいという保護者の思いがあると考えた時に、斐川地域には「おもちゃの家」がある。そこは敷居が低く、いわゆる「相談」という形に拘らず、気軽に立ち寄れるような場所として、とても大事なものだと感じている。小学校へ入学後もおもちゃの家に相談に行く保護者もおられ、その状況が小学校にもつながってくる場合がある。このような地域の拠点が必要だと思う。</p> <p>そのスタッフは小さな頃から子どもの状況がわかり、ずっと長くその子どもをみていてもらっている。そのような人がいること、仮に人が代わっても、きちんとつながっていくような柱となる人がいることが大事だと思う。</p> <p>また、「おもちゃの家」では、研修をしたいと思った時に一緒に勉強したいという人が集まるような場所にもなっている。「おもちゃの家」が素晴らしいと思うのは、子どもの支援について適切なアドバイスをしてもらえるようなスペシャリスト、スーパーバイザーのような人が配置されていることである。</p> <p>そういうところが地域にあると、非常に大きな柱になって、学校、専門機関、医療機関などともつながっていくと思う。生涯にわたって柱となるような地域の拠点をどこにもつくっていくと、保護者、子ども、支援者（幼稚園・保育所・学校など）にとって大きな力になるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>「人」に関することについてであるが、支援するものは個人情報を取り扱うことにもなるし、障がいのある方の悩みは成長に伴って段々悩みが大きくなっていく。ある期間をサポートするのではなく、少し長い間、相談できる人の配置が必要だと思う。</p>

	<p>いくら専門知識があったとしても、支える人が短期間で次々変わっていくと保護者の支えにならないのではないかと。どんな雇用の形でもいいので少し長い期間、その場所において、いろんなものを積み上げていくことが大事ではないかと思う。</p> <p>保育者として一番相談させてもらっているのが保健師である。保健師は各地域にいるので、健診などから一緒になって支えてもらっている。ただ、人事異動などで担当者が変わると、それまでの関係もまた新たになってしまう。健診で保護者が相談するのは保健師だと思う。保健師から保育所にも相談があり、通級や地域の支援などにつながっていく。もう少し保健師と密につながって、地域の情報を交換ができる場をつくってほしいと思う。</p>
部会長	<p>相談できる場、人をつくるということも必要だが、どんな人がいてどういう機関があるかということは、子どもを支えることでもあり、保護者を支えることでもあり、地域で支えることでもあるという色んな意味を含んだことであると思う。</p>
委員	<p>視点が変わるが、市内の保育所は定員が 200 人で希望者が 250 人というところもある一方で、少ないところは定員が 30 人でも定員割れをしている保育所もある。中央部はどんどん大きくなる傾向があり、適正規模はいったいいくらなのかと思っているところである。保育所に 250 人もいたら目が行き届くのか。だんだんと地域格差が広がっている。市全体として子どもの配置や受け入れ体制を考えていく必要があると感じている。</p>
部会長	<p>視野を全市に広げたような視点から子ども或いは保護者を支えるような支援をどう組み立てていくかという新たな視点をいただいた。</p>
委員	<p>専門家や専門支援者から上から目線で見られていると感じる保護者もいる。こうしたことから、先輩となる保護者がインフォーマルなケアによって社会全体でサポートしていくという意味あいでも、ボランティアの方々などを含めたいろいろな支援体制があってもいいのかと思う。</p>
部会長	<p>例えば、そういったことの体制で具体のものはあるか。</p>
委員	<p>ペアレントメンターを考えている。先輩保護者のことであり、少しずつ取り入れている地域もある。専門家が支えることはもとより、非専門家が支える仕組みがあるといいと思う。</p>
部会長	<p>ペアレントメンターは県内でも少しずつ増えてきている状況と思う。</p>
委員	<p>子育て支援ということで最近感じていることがある。障がいがあるなしではなく、</p>

	<p>人と関わる力や、子どもの発達を支える力ということに関して、親子の関わりを見た時に、子どもへの声かけ、子どもとの遊び方がとても気になる保護者が多い。大人の目線で子どもに関わっているのか、子どもに指示的な言葉が多い。また、子どもと一緒に遊ぶことが少なくなっている。そういうことを経験していない世代なのかもしれない。土台になるのは乳幼児期の育ちであると思う。</p> <p>特にグレーゾーンといわれるような、療育までは必要ないが、日々の関わりによって成長していくだろうと思う子どもに対しては、親子でこんな遊びをするとこんな力になりますよといったような、子育てに関する情報が提供できるような場や、保護者に向けた働きかけができればいいと思う。</p> <p>幼稚園等の巡回相談の中で、親子の関わり方、人との関わり方・関わる力、適切な大人の働きかけ方、遊び方などについて、保護者に向けて伝える場があるといいと思う。例えば、地域で支える拠点となるような場所で、そういった情報を提供することができればいいと思う。</p>
委員	<p>保育所でも通級やおもちゃの家に相談させてもらうことが増えてきている。また、専門家に園に来てもらうことも増えてきている。ある保育所では、国の基準の2倍以上の職員を配置しているところもある。保育所では専門的にコーディネートができる者はいないので、通級などに相談させてもらうことも大事だが、日々の子どもの様子を観ていくということでは職員をたくさん配置して対応していくしかないので、国の基準を超えて配置していると考えられる。これくらい職員を配置すると経営がかなり厳しくなる。通級の充実について、市にぜひ対応をお願いしたいと思う。</p>
委員	<p>先ほど、発達障がいの一つの個性としてとらえるという話を聞いたが、以前、ある保護者から、人と関わるのが苦手だが、音楽に関しては非常に秀でているというような子どもについて相談を受けたことがある。発達障がいの一つの個性として専門的に関わる中で、秀でている所は伸ばしていくというようなとらえ方というのはどのように支えていくことなのか教えていただきたい。</p>
部会長	<p>「こういう特徴がある子どもだからこうしましょう」というような方法論はある。特別支援教育制度が平成19年からスタートして何年も経過しているが、子どもの数は減っているが、特別支援教育に関わる子どもは増えてきており、どうやら方法論だけでは難しいのではないかとこのころに至っている。方法論を知った上でどうふうに育てるかが、これからの課題ではないかと思う。</p> <p>本日は「今ないもの」をイメージしながら「人がほしい」、「場がほしい」、「こん窓口がほしい」などの意見をいくつか出してもらった。一方で、「これがないからこうなってほしい。」というものだけでなく、例えば子育て支援課の巡回相談、教育委員会の就学前の健診や就学相談など、実際に今あるものの見方を少し変えていくことで、有機的につなぎあっていくものもあるように思う。このことは、私達委員も考え</p>

	<p>る必要があるし、事務局である行政側としても、例えば隣の課と一緒にできることはないかなどの発想をもちながら検討してもらうことが必要であると思う。</p> <p>私達が支えるのは「何のために支えるのか」をきちんと押さえながら検討していきたいと思った。本日言い足りない意見等があれば事務局まで報告してもらいたい。できる、できないに関わらずアイデアやひらめきを含め、考える材料をたくさん出していただきたい。</p> <p>それでは事務局に進行をお返りする。</p>
事務局	<p>3 その他</p> <p>次回の開催予定についてご連絡する。第4回の部会を7月中に開催する予定としている。日程調整のうえ、改めてご案内をさせていただくのでご出席をお願いします。</p>
事務局	<p>4 閉会</p> <p>委員の皆様には、長時間にわたり感謝申し上げます。</p> <p>今回は、途切れのない支援をしていくため、「つなげる」をテーマ討議していただく予定である。</p> <p>以上をもって本日の会議を終了する。</p> <p>会議終了</p>